

令和2年度国有林野事業業務研究発表会 課題一覧

1 森林技術部門(9課題)

局	発表課題名	森林管理署等 (元所属)	発表者	発表概要
北海道	造林作業の「高効率、低コスト、軽労化」我が署の取組	十勝東部森林管理署	高村 唯花	高効率、低コストで軽労化に繋がる造林作業を目指して「地拵方法」「植栽方法」について、十勝東部署として取り組んできた作業手法について紹介し、現時点での成果と課題、問題が明らかになったので報告する。
			金森 千沙	
			森田 一成	
東北	治山事業における流木災害対策の計画及び実行にかかる検討	米代東部森林管理署上小阿仁支署	有馬 俊英	平成29年度、全国各地で発生している流木災害の対応策について新たな指針が示された。本発表では、流木捕捉式治山ダムの設置及び危険木等の伐採に着目し、検討経過や施工時における工夫・留意点について発表する。
関東	二ホンジカ防護柵(縦張柵・斜張柵・金網柵)の比較検討	林野庁 森林整備部 研究指導課 (元 群馬森林管理署)	小澤 一輝	各地で様々なシカ柵の導入が進む中、作設・点検補修・撤去を包含した総コストや防除効果を定量的に分析し、より費用対効果が高い柵の普及を進める必要がある。今般、関東局で代表的な3種の柵について比較評価したので、結果を発表する。
中部	木曾ヒノキ天然更新のためのササ制御とその効果について	木曾森林管理署	中島 和美 早川 幸治	ササ生地における木曾ヒノキの天然更新を図るため、漸伐事業地で平成28年から刈払い等のササ処理の実証試験を行ってきた。これまでのササの繁茂状況の経過からその効果と今後の取組について考察する。
	造林事業の省力化に向けた新たな挑戦	愛知森林管理事務所	埴岡 千尋	造林事業の省力化が課題となっている中、「D材の搬出による地拵コストの削減」と、「個体数管理の徹底によるシカ防護柵コストの削減」に取り組んだので、その成果と課題を発表する。
近畿中国	早生樹センダン植栽試験 ～特に寒冷地での生育状況について～	森林整備部 技術普及課	磯崎 愛永	平成27年度から早生樹センダンの植栽試験を行っており、気候等の環境条件の違いによって生育状況に差があることから、今回、寒冷地での生育状況及び苗木の産地による成長の違いについて検証したので発表する。
	ICT機器を活用したこれからの森林管理 ～地上レーザースキャナによる樹高計測の検証と補正・補完～	森林技術・支援センター	坪倉 真	地上レーザースキャナの樹高データの精度に課題があることから、この課題解決に向けて、補正係数の検討や、UAVと併用することによる補完について検証を行ったので成果を発表する。
四国	高齢級ウバメガシ林分の更新試験について	四万十森林管理署	辻 周子	炭利用の大幅減少に伴い、近年では高齢化したウバメガシ林分の荒廃が懸念されていることから、林分の若返りを目指し、高知県大月町の国有林にて、高齢級ウバメガシ林の適切な更新方法について検証し、その結果等について発表する。
		いの町森林政策課 (元 四万十森林管理署)	中村 咲恵	
九州	下刈りの低コスト化、労働力軽減等への取組状況について ～次世代造林プロジェクト経過報告～	森林技術・支援センター	釜 稔	次世代造林プロジェクトの中で得られた現時点での成果(高下刈り、低密度植栽、パッチディフェンス無下刈り等)や、特定母樹の中苗による下刈り回数の削減等、下刈りの省力化に絞った事例等を報告する。
			山形 良平	

令和2年度国有林野事業業務研究発表会 課題一覧

2 森林ふれあい・地域連携部門(4課題)

局	発表課題名	森林管理署等 (元所属)	発表者	発表概要
東北	カホン(木製打楽器)を用いた地域密着型木育の可能性検証	米代東部森林管理署 (元 三陸北部森林管理署)	岡部 真也	カホンという木製打楽器に着目し、岩手県宮古市で県産材を材料として製造している合板材を用い、地域と連携した木工体験を行った。その成果を踏まえ、地域の森林林業に興味を持つきっかけとなる木育活動として、期待できる効果や可能性を検証した。
		三陸北部森林管理署	橋本 滯佳	
		林野庁 国有林野部 業務課 (元 三陸北部森林管理署)	長岡 圭祐	
関東	民国連携「その先」を目指して。 ～シカ情報発信の取組から～	茨城森林管理署	菊池 毅	民国連携業務や現地検討会などは一般的なマスコミの関心が低い。情報発信のあり方を模索する中で、二ホンジカに関する情報を発信、その後の県や研究機関との連携、さらには協議会の発足などについて取り組んだ内容を発表する。
四国	木の文化を支える活動 (「シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定」に基づく活動)	徳島森林管理署	安光 圭一 丸田 泰史	日本三大奇橋として、徳島県三好市に「祖谷のかずら橋」がある。そのかずら橋の架け替え資材として「シラクチカズラ」が使われているが、その資材の安定的な確保に向け、三好市・香川大学等との取組を発表する。
		三好市教育委員会社会教育課	宮田 健一	
九州	「 <small>いのちのまがひ</small> 八重溪谷」のブラッシュアップによる地域創生 ～NPO法人と協働による取組～	宮崎南部森林管理署	寺田 雄一郎	猪八重溪谷のレクリエーションの森・学習の森・日本の貴重なコケの森等の特徴を生かし、北郷町森林セラピー協議会の中核メンバーであるNPO法人「ごんはる」との共働による活動の紹介と今後の活動の方向性を考察した。
		NPO法人 ごんはる	谷口 由利子	

3 森林保全部門(8課題)

局	発表課題名	森林管理署等 (元所属)	発表者	発表概要
北海道	エゾシカ捕獲の効率化を目指した取組 ～自動撮影カメラによる動向調査結果の活用～	網走西部森林管理署西紋別支署	寺田 崇晃	滝上町、地元猟友会とのエゾシカ捕獲連携事業地において、自動撮影カメラを用いたエゾシカの動向調査を平成29年7月より実施してきた。これまでの結果を踏まえ、捕獲の効率化に向けて取り組んだ。
			阿部 義則	
			岡倉 洋平	
山腹崩壊に係る地域対応でみえた国有林への期待 ～地域における森林管理署のあり方についての一考察～	空知森林管理署	山本 晃揮	山腹崩壊に係る地域対応の中で得た「情報少＝不安大」という実感から、山地災害の発生状況や対策情報を的確に伝える力をより高める方策について、組織体制、ICTツール活用、地域交流促進等の観点から考察した。	
		石田 翔也		
		服部 飛鳥		
東北	早池峰山周辺地域における二ホンジカ対策	岩手南部森林管理署遠野支署	大和田 洸希	早池峰山周辺地域において増加している二ホンジカへの対策として当支署が実施している高山植物の保護柵の設置やクマを錯誤捕獲しないくりワナを使用した捕獲等についての課題と対応方向を検証・検討した。
関東	東日本大震災における海岸防災林の復旧状況 ～クロマツ植栽木の生育状況～	磐城森林管理署	長野 祐介 武藤 暢光	東日本大震災に伴い発生した大津波により壊滅的被害を受けた海岸防災林の復旧状況について、防風柵工、排水工などの施工内容とこれら工種及び配置等がクロマツ植栽木の成長に与える影響等について検討した内容を発表する。
中部	ICTを活用した二ホンジカ捕獲の取組について ～わな見回りの軽減の試み～	愛知森林管理事務所	日置 順昭	猟友会等によるシカ個体数調整にかかる「見回り労務の軽減」の試みとして、ICT技術による「携帯の届かないエリアでの捕獲通知」と「従来型通報システムから赤外線感应型センサー」での実証を報告する。
近畿中国	治山事業施工地(緑化箇所)におけるシカ被害対策について	計画保全部 保全課 (元 奈良森林管理事務所)	小林 正典	法枠工施工地へのシカ侵入防止対策として、平成27年に開発した竹被覆工の効果の検証及び問題点を踏まえた改良を行った。また、類似の工法である簡易法枠工施工地への試験施工を行い、シカ侵入防止効果を検証した。
四国	獣害防護柵と忌避剤を用いたノウサギによる被害防止の取組について	森林技術・支援センター (元 高知中部森林管理署)	渡邊 由一	近年、二ホンジカに加え、ノウサギによる苗木の被害が増加している。このことから、国有林内に防護柵(タイプ別)と忌避剤(散布の有無)の試験地を設定して、ノウサギの侵入状況、苗木被害の部位別等について検証し発表する。
		愛媛森林管理署 (元 高知中部森林管理署)	中村 光太郎	
九州	<small>しげさん</small> 紫尾山におけるブナ林の保全対策について(第3報)	北薩森林管理署	緒方 琴音	薩摩半島の南限である紫尾山のブナ林は近年、シカ被害により下層植生の衰退が著しく植生保護柵を設置し保全に取り組んでいる。今回はブナの種子に着目し豊凶調査や発芽試験を始めたので、その経過について報告する。
		計画保全部 保全課 (元 北薩森林管理署)	田畑 駿也	